

# 中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和5年1月～3月実績

令和5年4月～6月見通し

福井県商工会連合会



## I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 令和5年1～3月期実績及び令和5年4～6月期見通し
7. 調査時点 令和5年3月1日（水）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

### 9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

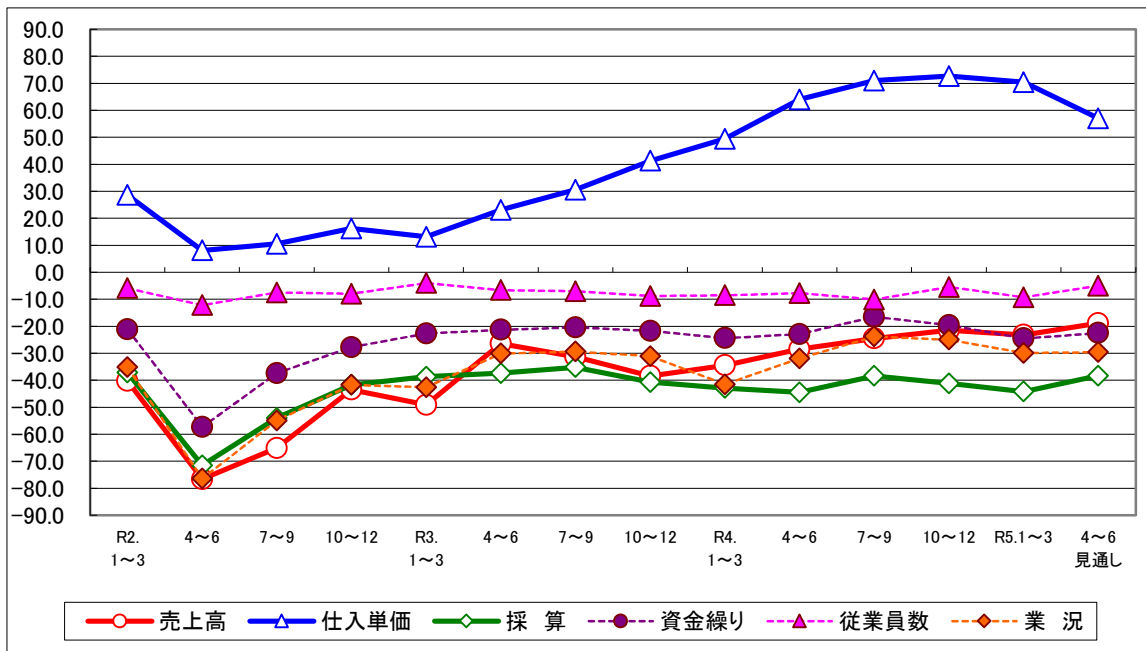
### 10. 分析執筆者 福井県立大学 名誉教授 南保勝氏

## 全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

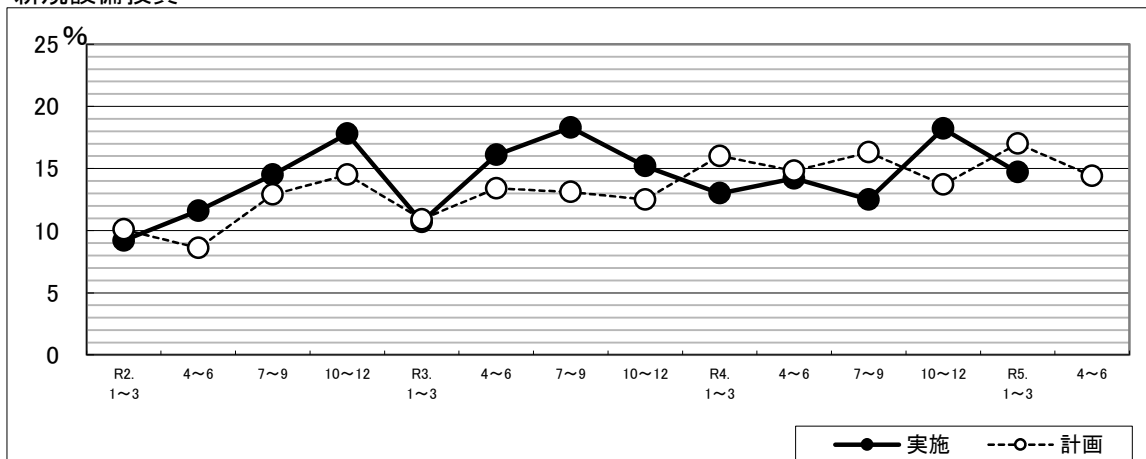
### 景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R2.1~3	▲ 40.3	28.6	▲ 37.2	▲ 21.1	▲ 5.9	▲ 35.2
4~6	▲ 76.6	8.1	▲ 71.5	▲ 57.3	▲ 12.2	▲ 76.4
7~9	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
10~12	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
R3.1~3	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
4~6	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
7~9	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
10~12	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
R4.1~3	▲ 34.5	49.4	▲ 42.9	▲ 24.4	▲ 8.5	▲ 41.5
4~6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7~9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10~12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1~3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4~6見通し	▲ 18.9	57.0	▲ 38.3	▲ 22.5	▲ 5.0	▲ 29.6

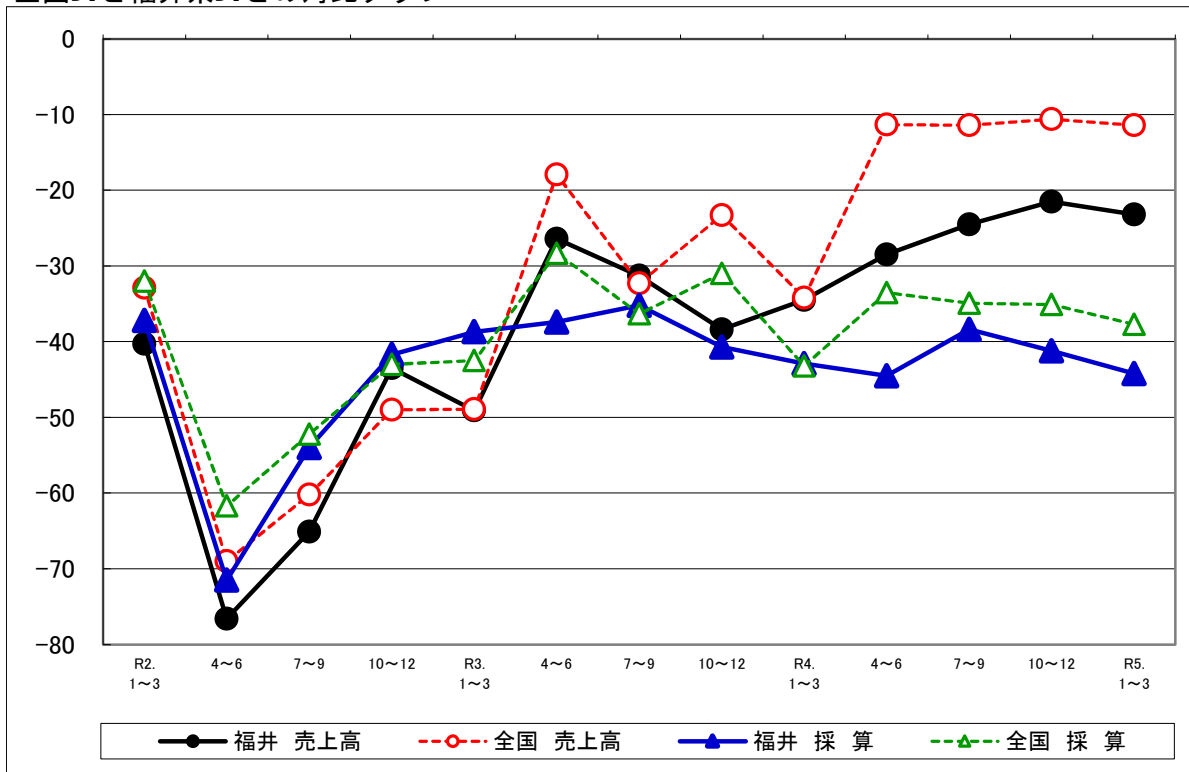
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R5年1-3月期の福井県経済を概観すると、企業部門では、生産面で生産用機械が拡大しているものの、電子部品・デバイスがスマートフォン向けや自動車向けで弱含んでいることなどから、全体では弱含んでいる。家計部門では、個人消費でドラッグストア販売が順調に推移。また、温泉地や観光地、飲食サービスで持ち直しの動きがみられ、全体では緩やかに持ち直している。先行きについても、各種政策効果もあって、景気が持ち直していくことが期待されるが、世界的な金融引締めが続く中、海外景気の下振れが懸念されるほか、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響には留意する必要がある。こうした状況下、今期（R5年1-3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中5項目で悪化となった。項目ごとのDI値をみると、売上高が前期▲21.5→今期▲23.2、仕入単価（逆指数）が前期72.7→今期70.4、採算が前期▲41.2→今期▲44.2、資金繰りが前期▲19.6→今期▲24.5、従業員数が前期▲5.5→今期▲9.3、業況が前期▲25.0→▲29.9となっている。先行き（R5年4-6月期）については、6項目全てで改善予想となった。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、両項目とも全国および福井県ともに悪化傾向となり、依然として厳しい景況感が見て取れる。

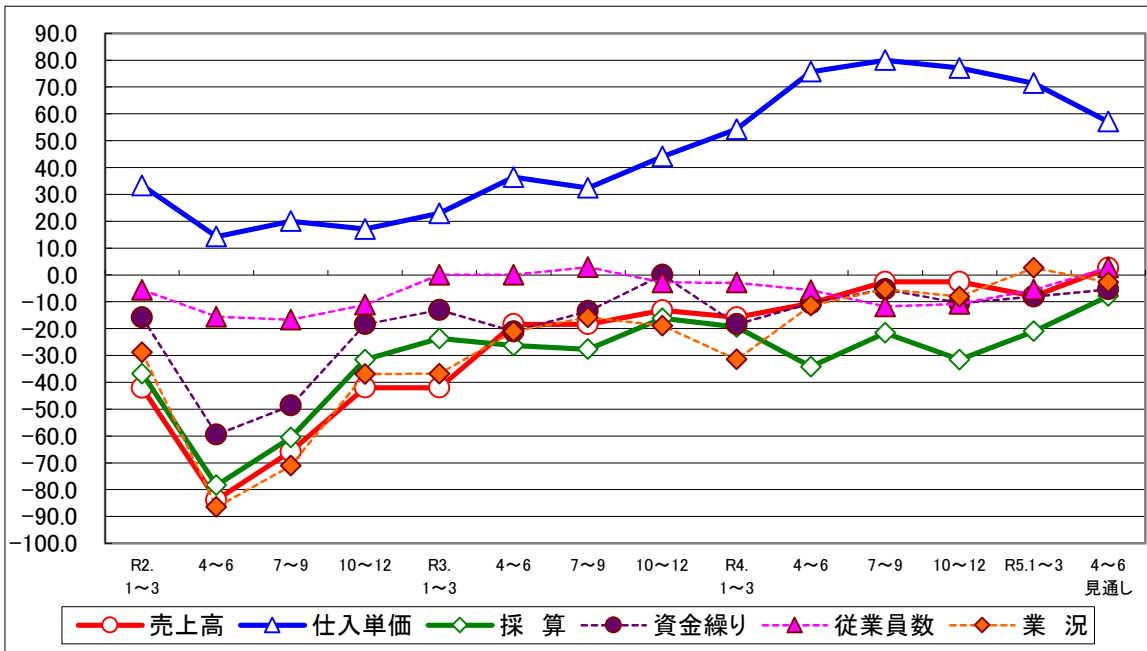
そのほか、今期の新規設備投資については、設備投資を計画した企業17.0%に対し実施した企業14.7%と実施が計画を下回り、低調な動きとなった。先行き（R5年4-6月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が17.0%となり、投資マインドは横ばいで推移することが予想される。

## 製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

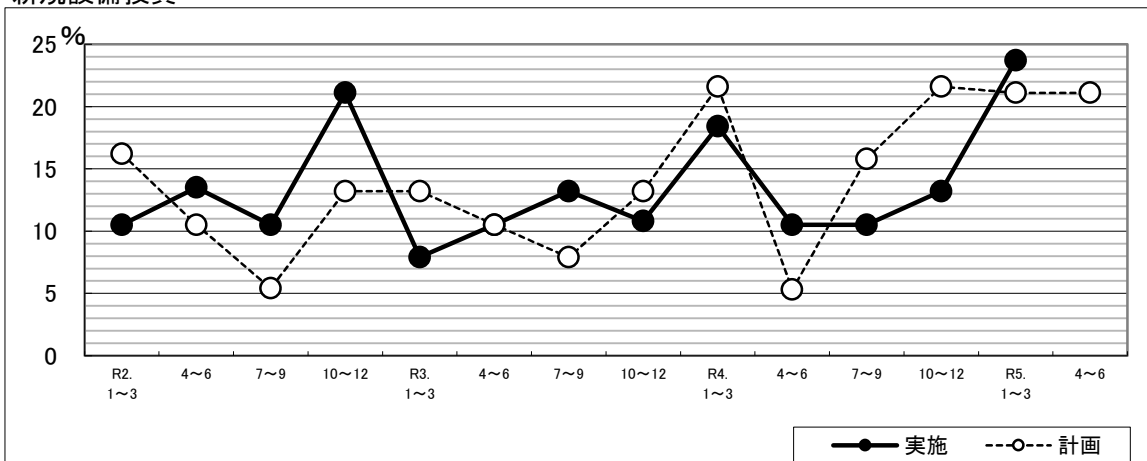
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R2.1~3	▲ 42.1	33.3	▲ 36.8	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 28.9
4~6	▲ 83.8	14.3	▲ 78.4	▲ 59.5	▲ 15.6	▲ 86.5
7~9	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
10~12	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
R3.1~3	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
4~6	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
7~9	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
10~12	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
R4.1~3	▲ 15.8	54.3	▲ 19.4	▲ 18.4	▲ 2.9	▲ 31.5
4~6	▲ 10.5	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7~9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10~12	▲ 2.6	77.1	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1~3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4~6見通し	2.6	57.1	▲ 7.9	▲ 5.4	2.7	▲ 2.7

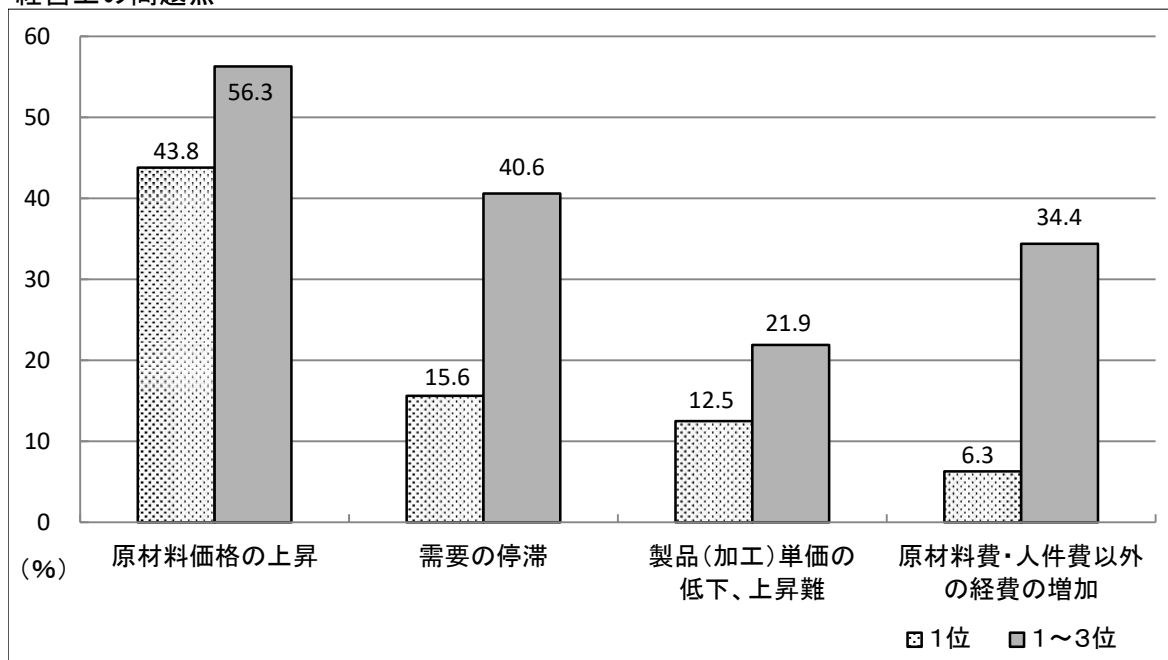
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・原材料又は機械設備の不具合を原因とする製品不良の発生により、製品の一部が受注停止状態となっており、売上の減少につながっている。
- ・業界全体が回復しつつあると感じる。引き合いも活発であり既存の顧客も戻りつつある。しかし、弊社の業種は長期的量産の見通しが立たないので、このような業況判断になった。
- ・全てのものが値上がりする中で、必要なものは高くなっても売れているが、カーテンのようにどうしても必要でないものは、後回しになる為、全く売れていない。

## 製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、生産用機械は、繊維機械、半導体製造装置を中心に拡大しているほか、地場産業の繊維、眼鏡枠が円安などの影響を受け持ち直している。しかし、主力の電子部品・デバイスなどでは、スマートフォン向けや自動車向けが弱含んでいることなどから盛り上がりを欠く展開となっているほか、化学、輸送機械、非鉄金属（アルミ圧延製品）なども弱含んでいる。

こうした状況ながら、今期（R5年1～3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中1項目のみが悪化、残る5項目は改善傾向を示している。各項目の状況をみると、売上高が前期▲2.6→今期▲7.9と唯一悪化したものの、仕入単価（逆指数）が前期77.1→今期71.4へ、採算が前期▲31.6→今期▲21.0へ、資金繰りが前期▲10.6→▲8.1へ、従業員数が前期▲10.8→▲5.5へ、業況が▲8.1→2.6へと改善している。先行き（R5年4～6月期）についても、業況を除く5項目で改善予測となっている。

一方、新規設備投資の状況については、計画の21.1%に対し実施が23.7%と順調に推移。先行き（R5年4～6月期）についても、何らかの投資を予定する企業が21.1%となり、投資マインドは引き続き堅調に推移することが期待される。

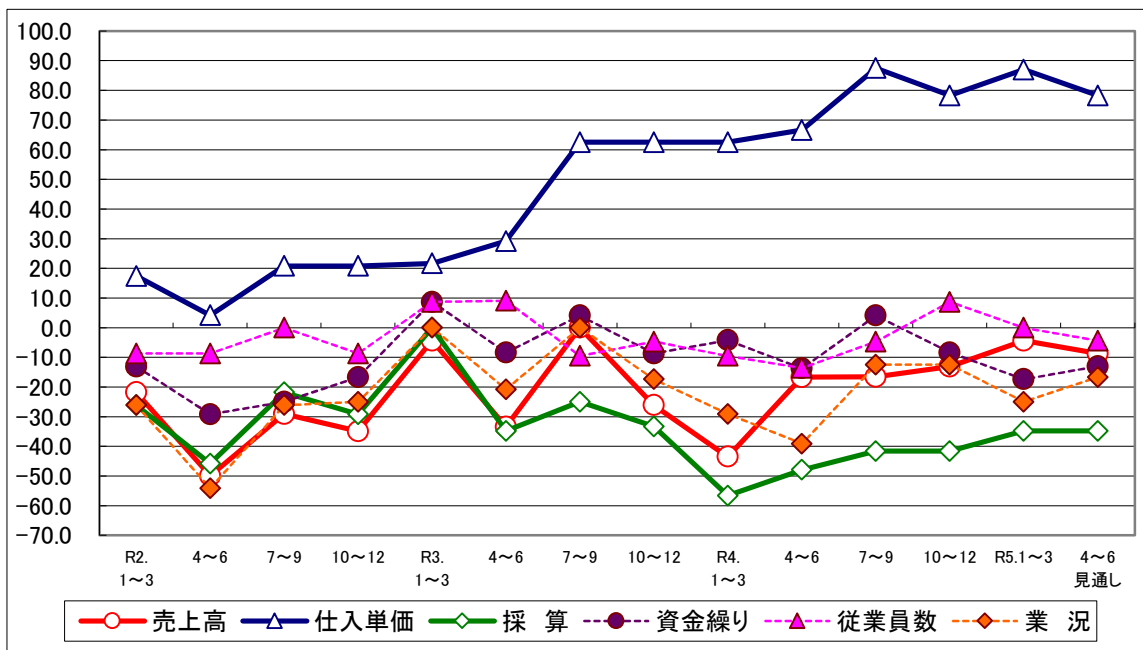
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「原材料価格の上昇」で最も多く43.8%（1位～3位までに挙げた企業56.3%）を占めた。次いで、「需要の停滞」（1位に挙げた企業15.6%、1～3位に挙げた企業40.6%）、「製品（加工）単価の低下・上昇難」（1位に挙げた企業12.5%、1～3位に挙げた企業21.9%）が続いている。

## 建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

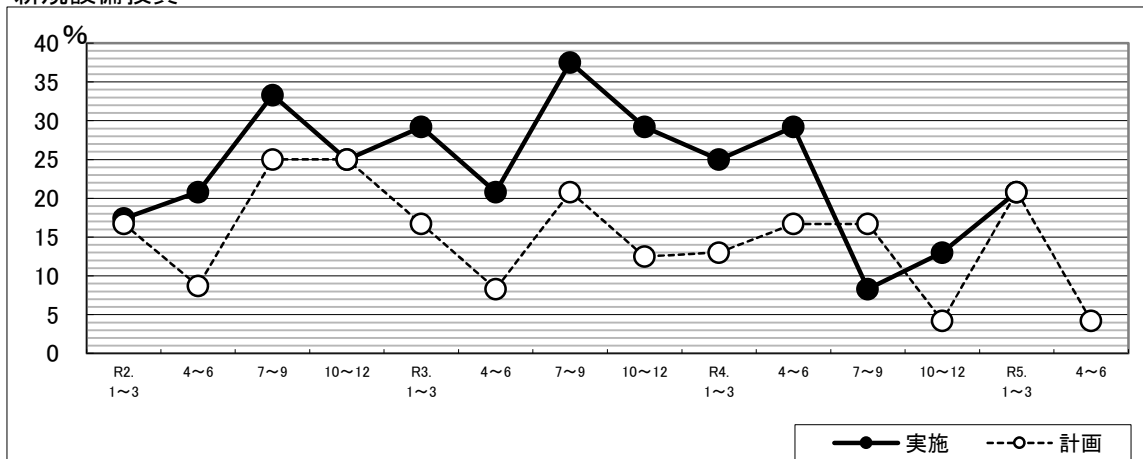
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R2.1~3	▲ 21.8	17.4	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.7	▲ 26.1
4~6	▲ 49.9	4.2	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 54.1
7~9	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
10~12	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
R3.1~3	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
4~6	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
7~9	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	0.0
10~12	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
R4.1~3	▲ 43.5	62.5	▲ 56.6	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 29.1
4~6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7~9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10~12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1~3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4~6見通し	▲ 8.7	78.3	▲ 34.8	▲ 13.0	▲ 4.4	▲ 16.7

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

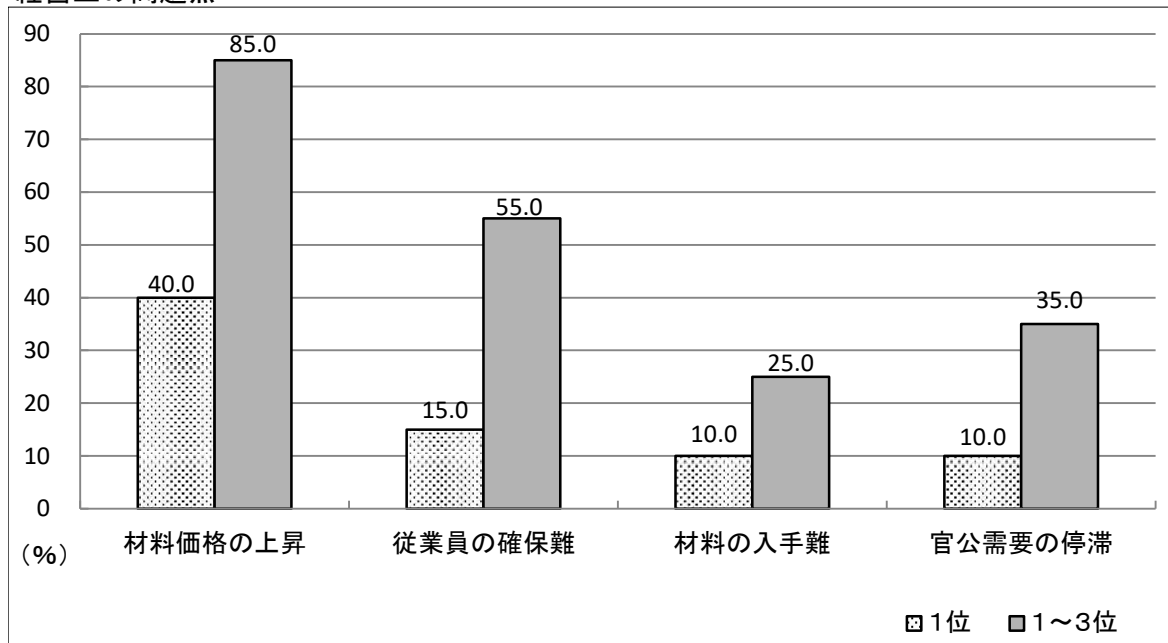


### 新規設備投資





## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・最近の物価上昇により、従業員の賃金を上げていかないといけないだろうと思っている。従業員の確保も困難で仕事は次々とあるけど人手不足の状態である。
- ・年度後半だが官公庁からの発注も少なく、材料価格の上昇も終わりが見えず、先の見通せない状況である。
- ・昨年未より材料費が上昇。入手までの期間も長くなっている。

## 建設業の景況

福井県内におけるR4年度（R4年4月～R5年3月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,523億77百万円の前年同期比2.9%の減少、発注件数は同3,804件の同10.6%の増加となっている。これを主な発注者別でみると、福井県関連工事が562億04百万円の前年同期比20.1%増となったものの、独立行政法人等関連工事が309億82百万円の同33.1%減となるなど、前期を割り込む事業が目立っている。一方、住宅投資については、R4年4月～R5年2月の累計で、前年同期比9.5%減の4,296戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比8.1%減の2,071戸、貸家が同2.1%増の1,766戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰とともに住宅部材の品薄傾向が続いており、今後の住宅投資の下振れには留意する必要がある。こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち2項目で改善、4項目が悪化となった。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲13.1→今期▲4.4、仕入単価（逆指数）が前期78.3→今期87.0、採算が前期▲41.6→今期▲34.8、資金繰りが前期8.4→今期▲17.4、従業員数が前期8.7→今期0.0、業況が前期▲12.5→今期▲25.0となっている。また、先行き（R5年4～6月期）については、改善予想が3項目、悪化予想が2項目、横ばいが1項目とばらついており、景況感は依然として厳しい状況が続くものと思われる。

一方、今期の新規設備投資については、計画した企業20.8%に対し実施した企業が20.8%と順調に推移。しかし、先行き（R5年4～6月期）については、投資計画を持つ企業が4.2%にとどまり、投資マインドの停滞が予想される。

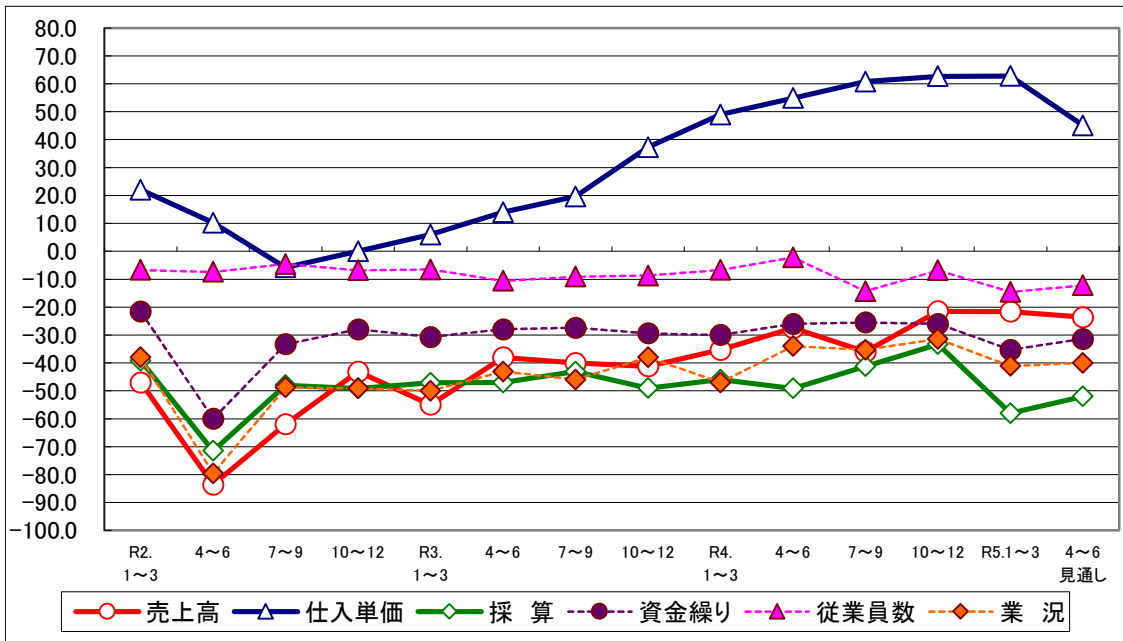
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「材料価格の上昇」で最も多く40.0%（1位～3位に挙げた企業85.0%）を占めた。次いで、「従業員の確保難」、「材料の入手難」が続いている。

## 小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

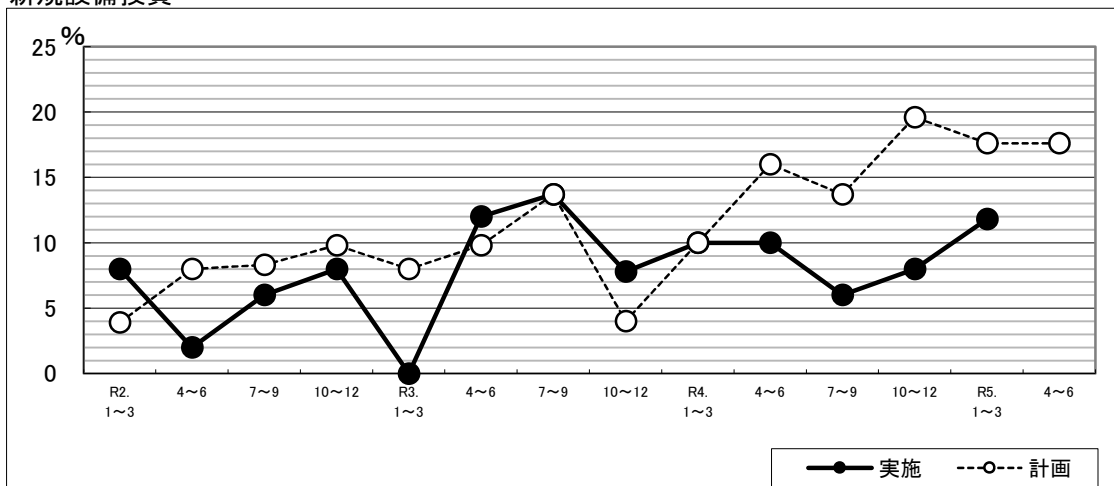
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R2.1~3	▲ 47.0	22.0	▲ 39.2	▲ 21.6	▲ 6.7	▲ 38.0
4~6	▲ 83.6	10.2	▲ 71.5	▲ 60.0	▲ 7.4	▲ 79.6
7~9	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
10~12	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
R3.1~3	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
4~6	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
7~9	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0
10~12	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
R4.1~3	▲ 35.3	49.0	▲ 46.0	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 47.0
4~6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7~9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10~12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1~3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4~6見通し	▲ 23.6	45.1	▲ 52.0	▲ 31.4	▲ 12.2	▲ 40.0

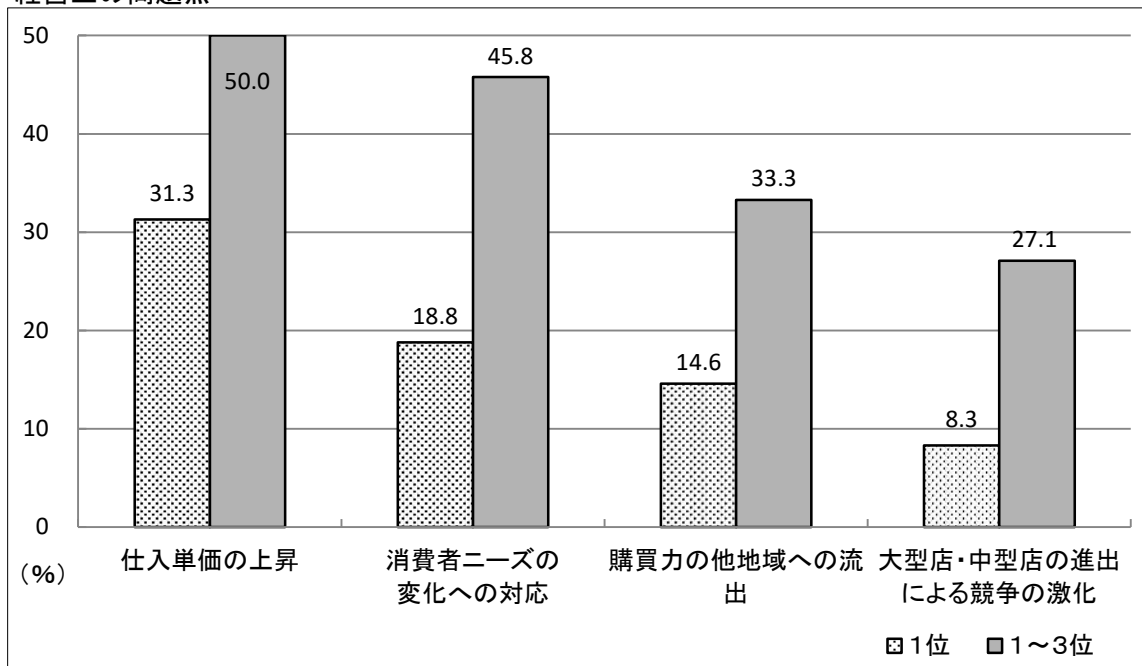
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・コロナ禍で老人ホームの物品販売が注文販売に変わり月4回が2回に減少して売上が減少した。各ドラッグストアでは野菜果物まで扱うようになり来店等はさらに減少している。
- ・業界も縮小してきている。顧客も高齢化が進み、減少してきている。コロナ禍以前の状況に戻るのはかなり難しいと思っている。
- ・コロナは落ち着いたが物価の上昇で買い控えている様に思う。今年こそどこかに出かけたいの気持ちで引き続き支援があると財布の紐が緩むのではないかな。

## 小売業の景況

最近の小売商況を概観すると、ホームセンター、家電量販店などが弱含んでいるものの、ドラッグストア販売が順調に推移、コンビニエンスストア販売も堅調を継続するなど、県内小売商況は概ね持ち直している。ただ、近畿経済産業局が公表するR5年1月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）は、身の回り品を除き、衣料品、食料品などが軒並み前年割れとなり、前年同月比1.7%減（全国5.9%増）の76億27百万円となっている。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目すべてが悪化傾向を示している。項目別の状況をみると、売上高が前期▲21.5→今期▲21.6、仕入単価（逆指数）が前期62.7→今期62.8、採算が前期▲33.3→今期▲58.0、資金繰りが前期▲26.0→今期▲35.3、従業員数が前期▲6.8→▲14.6、業況が前期▲31.4→今期▲41.1となっている。先行き（R5年4-6月期）については、5項目で改善予想となった。

一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の17.6%に対し実施が11.8%と低調な推移となった。先行き（R5年4-6月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが17.6%となり、今期同様の計画となっている。

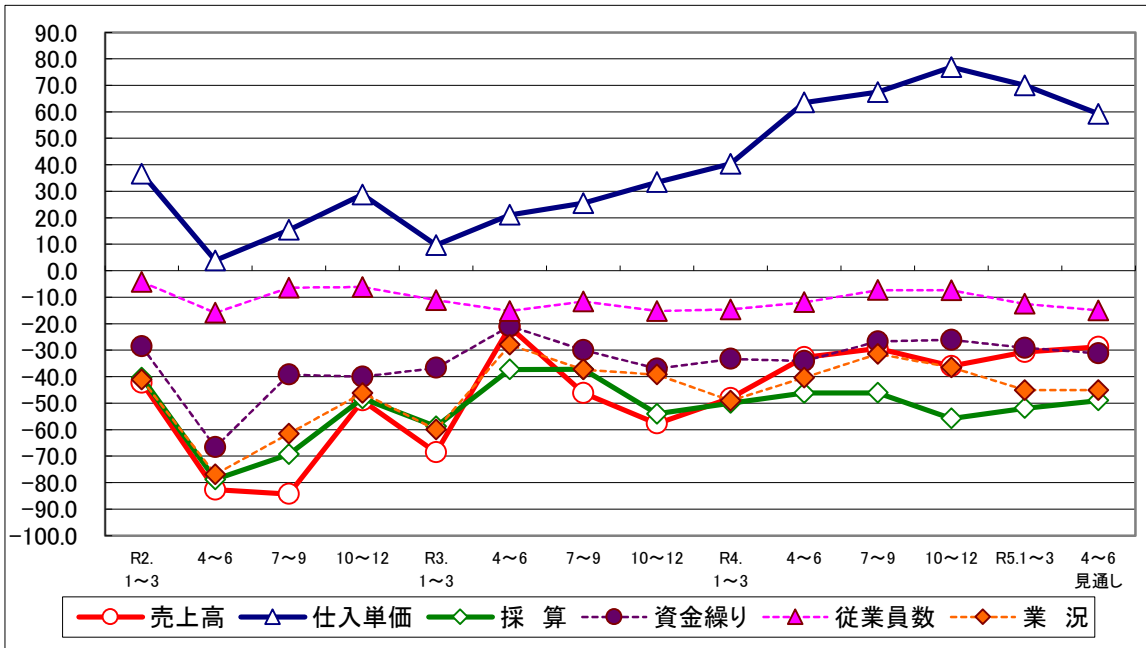
最後に、経営上の問題点については、「仕入単価の上昇」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト31.3%、1位～3位までに挙げた企業50.0%となった。次いで、「消費者ニーズの変化への対応」、「購買力の他地域への流出」が続いている。

## サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

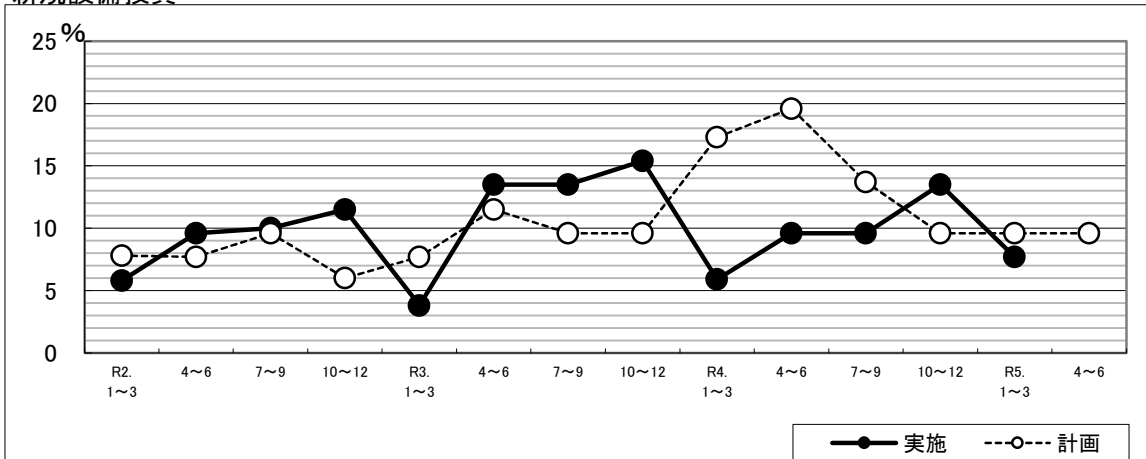
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R2.1~3	▲ 42.3	36.6	▲ 40.4	▲ 28.6	▲ 4.2	▲ 41.1
4~6	▲ 82.7	3.9	▲ 78.8	▲ 66.6	▲ 15.9	▲ 76.9
7~9	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5
10~12	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2
R3.1~3	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0
4~6	▲ 21.2	21.1	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0
7~9	▲ 46.2	25.5	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3
10~12	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2
R4.1~3	▲ 48.1	40.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 14.6	▲ 49.1
4~6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7~9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10~12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1~3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4~6見通し	▲ 28.8	59.2	▲ 49.0	▲ 31.2	▲ 15.0	▲ 45.1

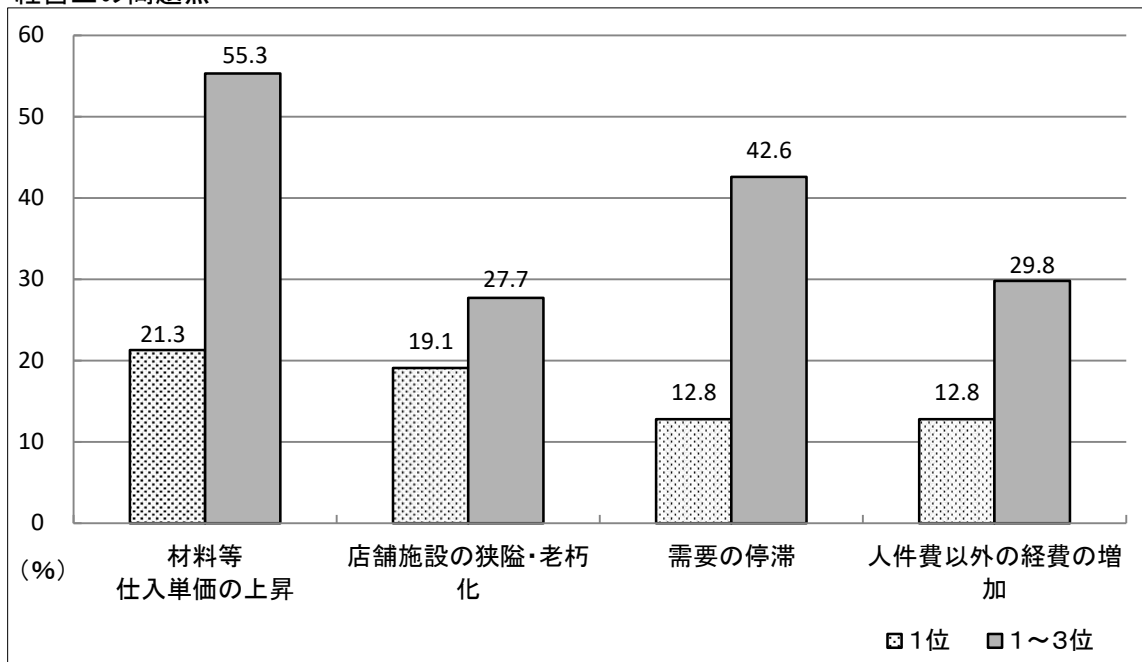
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・材料や経費が全て値上げしていて、今までの単価では自分たちも厳しくなり、お客様への単価も上げざるを得なく心苦しく思っている。
- ・売上は悪い状況で不変になっている。インフレになれば、経営はさらに悪くなる。
- ・ふく割の影響は大きく、新規の客も増え土日は忙しくなりありがたい。しかし、今年に入っても材料価格特にアルコールの高騰が続いている為、利益が見込めない

## サービス業の景況






経済産業省が毎月公表する「第3次産業活動指数」（R5年1月、季節調整値）をみると、指数値100.5、前月比0.9%と3か月ぶりの上昇となった。1月の業種別の動きをみると、11業種中、6業種が前月比上昇、5業種が低下となっている。1月は、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和されたことなどを受けて、「運輸業、郵便業」や生活娯楽関連サービス等が上昇し、その結果、サービス産業全体としても上昇に転じたことが考えられる。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中3項目が改善、3項目で悪化となっており、まだまだ先の見えない状況にあることがうかがえる。項目別の指数は、売上高が前期▲36.0→今期▲30.7、仕入単価（逆指数）が前期76.9→今期70.0、採算が前期▲55.8→今期▲51.9、資金繰りが前期▲26.1→今期▲29.1、従業員数が前期▲7.4→今期▲12.5、業況が前期▲36.5→今期▲45.1となっている。また、先行き（R5年4-6月期）については、3項目で改善、残り2項目で悪化、1項目で横ばいとなっており、予断を許さない状況が続くものと思われる。

一方、新規設備投資については、計画9.6%に対し実施が7.7%となり、実施が計画を下回っている。先行き（R5年4-6月期）についても、何らかの投資を考える企業ウエイトが今回調査同様の9.6%にとどまり、投資マインドは引き続き精彩を欠くものと思われる。

最後に、経営上の問題点については、「材料等、仕入単価の上昇」（1位に挙げた企業ウエイト21.3%、1位～3位までに挙げた企業55.3%）への指摘が最も多く、次いで「店舗施設の狭隘・老朽」、「需要の停滞」への指摘が目立っている。

全国・福井景気動向 令和5年1月～3月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 11.4	76.7	▲ 37.7	▲ 19.7	▲ 5.1	▲ 23.4
	製造業						
	DI値	▲ 8.7	81.1	▲ 29.5	▲ 17.1	▲ 4.5	▲ 17.1
	建設業						
	DI値	▲ 20.5	81.8	▲ 36.1	▲ 12.8	▲ 8.1	▲ 20.3
	小売業						
	DI値	▲ 22.8	69.2	▲ 43.7	▲ 27.3	▲ 3.0	▲ 34.7
	サービス業						
DI値	▲ 2.6	74.7	▲ 38.2	▲ 18.4	▲ 4.9	▲ 21.5	
福井	全体						
	DI値	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
	製造業						
	DI値	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
	建設業						
	DI値	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
	小売業						
	DI値	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
	サービス業						
DI値	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。